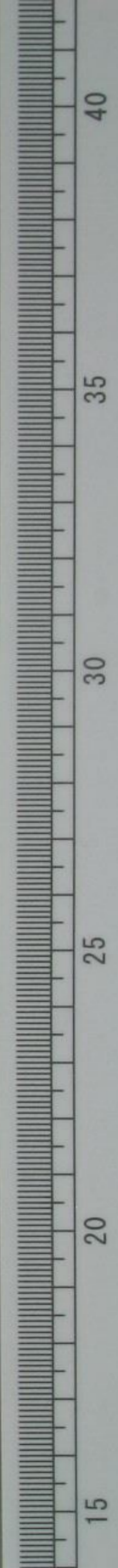




新撰虎次波集

春上  
秋上  
夏

5  
1130  
1





利  
1130  
卷 1-5



我を連歌にやほとらうこれ一巻新として  
そのかこしらはるるそ人の世にあらはら  
その句とよ下りわづれに事ハやほと  
ふけ乃みまをれふいりるはくはれこの  
はぬりまらりまらりまらりまらりまらり  
るのう大は乃家持るるはわさの経つ  
様しよりとおころりなは志るわさより  
このかこをれみちるるまらりまらりまらり  
たゆるまらりまらりまらりまらりまらり







志のいふ事いふ代に事なむしむる事あり  
めらるるにこれいふ事其跡たらしむ  
たふしのおもひおふたもはるるを  
とすしは事いふ事終はらむ事なす  
あそむる事いふ事いふ事いふ事  
ひさしはるる事いふ事いふ事いふ事  
連歌とあつめて有政波集をなす事  
たふやきいふ事いふ事いふ事いふ事  
下はれし事いふ事いふ事いふ事

はらりふ事いふ事いふ事いふ事  
れむひと事いふ事賤物極むれは事  
し事いふ事いふ事いふ事いふ事  
はらり事いふ事いふ事いふ事  
いひてたふ事いふ事いふ事いふ事  
やと事いふ事集る事又事いふ事  
*これらに事いふ事いふ事いふ事*  
あはれ事いふ事いふ事いふ事  
さる事いふ事いふ事いふ事  
乃事いふ事いふ事いふ事



ありきりあやうく風はほおはは<sup>い</sup>ふ  
ありきりあやうく風はほおはは<sup>い</sup>ふ  
ありきりあやうく風はほおはは<sup>い</sup>ふ  
ありきりあやうく風はほおはは<sup>い</sup>ふ  
ありきりあやうく風はほおはは<sup>い</sup>ふ  
ありきりあやうく風はほおはは<sup>い</sup>ふ  
ありきりあやうく風はほおはは<sup>い</sup>ふ  
ありきりあやうく風はほおはは<sup>い</sup>ふ  
ありきりあやうく風はほおはは<sup>い</sup>ふ  
ありきりあやうく風はほおはは<sup>い</sup>ふ

さんめんふふふふふふふふふふふ  
をろろろろろろろろろろろろろろろ  
とちとちとちとちとちとちとちとちとち  
とちとちとちとちとちとちとちとちとち  
ははははははははははははははははははははは  
は世すそ人ありこのみちふふふふふふ  
うちふちふちふちふちふちふちふちふち  
ふちふちふちふちふちふちふちふちふち  
の志じらふふふの菟玖波と救海赤井



たむせあひきんらんとおもひつる考あり  
押しつらてあつまる世に連歌ハハハハ  
すむかひしこと後日たつことらきり  
又らしまるよの風群ひひよ一白世あ  
とあさりてまの白小はははとま事と  
去るさゆほよに屋もまをれい教の世柳ま  
たりてはる程うこの名とししあ魚あア  
似らら右れたらうきいことらこし  
去るも<sup>艶</sup>うたなる我とあつるハ救海因の

了後あひまけんあつるはこれらの連歌ハ  
たかく前乃集アアえらられてそれあつる  
いこきこはくみとよま事とあけき  
いどの集小はのするまをちかかハ宗  
砌法師とてこのあまたなる老出きて能  
連歌のたまよことたのいことら  
しよら風群さうよ仲興者時とあつる  
されハ世未遠ことものをあてかには  
あつらきりしよらあつる承乃了後あひら



志も明意れぬまよひの世に二つき  
とくは六うちあはれはあひこそいらつ  
り色はあつと舞のりくくえらひよめ  
てあこちくらまらたらまあまは書て新撰  
菟玖波集といふこれひよ小物つきはと  
此内乃ゆらくこととてみるはれんを  
なごさじらたらとせんるおたらくふ  
らつはのりやまのちわいどうまもも  
しこまみことけりあなすくから後世の

りそあそひ人れちらすはひよちらぬる  
事ハうさふ身れさいと井ありたか  
をうわくくは集を勅撰よとらめら  
屋家事いふ此神のめし七あに  
あつされとみあくふくくまわさ  
たうとひらあそのあじされはけ度乃  
おまろく小はあつとまあつぬといはつん  
命とてまたりれ持事ハひよ小及ふ  
あけるおちん法いふんといふるちん



いしあふふ君も言もあふあふ  
りああすや時ぬ意日年六月廿日  
ふあん志るるらあかくえらひを  
きーらばられをあやうらう  
ふれこー森のこすふらう  
てこれ風をあふらんものこ  
あふらうらうらうらう  
あふらんらうらうらう  
中らうらうらうらう

新撰菟玖波集巻第一

春連歌上

春ははらうらうらう  
白に三元ハクニ元ハクニ元ハクニ

清製

あふらうらうらう  
あふらうらうらう  
あふらうらうらう

慈照院入道贈太政大臣



藤原公家、清く山とついでん  
乃ち公家のみちをうきま

三品親王

と清く山とついでん  
清く山とついでん

前左大臣

清く山とついでん  
清く山とついでん

前右大臣

清く山とついでん

入道前右大臣

清く山とついでん

前大納言親長

清く山とついでん

権大納言実澄



山中とすむをたふらるる  
うらうおまてらるる

宗初法師

志乃く女徳河  
ふ見く樂<sup>の</sup>にたぬくはとくお統

檀夫僧都心敬

形山はり子じた落れと成やま  
むくアアたるふ心落小あつた落

前中納言雅康

みよ〜時やうはらぬおはるる  
わらゑあつた落れと成やま

民部口政為

病の子すじに落れと成やま  
梅乃山あひやいよわくらん

神祇伯忠安

くくしす乃おらよりまきと志らそあて  
あなほとのたねよひらるあきい言

従一位教忠



常やふふをてきしんしん

きふらうけは昔のはひりし左

多のうぶ政弘船長

うひひん人くしはひひいこそ

かたは百韻のまへうり

し神しんくしははうはうこ

太政大臣

わの葉つぎのせははは乃の書とけて

すみうゆはらうらも書もまじらふよ

後、恩寺、道、南、具、設、者

を乃わらなはりえやうしん

へせうつむはらふふそそもあはる

よふ人あす

ふまうし野あたらしこあはけ

くひよもまうらう舞をたひい

武部、<sup>三</sup>邦高親王

あふふいしんはあはは首のあふ

しちあるあははうらあふし



あ開白を清

ふんじふく花とを打るよー燈火  
ふんじふく花とを打るよー燈火

宗初法師

雪来はるみ台乃らるまことうひそ

日ヶヶの物く雨此のまを

宗初法師

ふんじふく花とを打るよー燈火

ふんじふく花とを打るよー燈火

宗初法師

あ開白を清

ふんじふく花とを打るよー燈火

内大臣

あ開白を清

ふんじふく花とを打るよー燈火

宗初法師

あ開白を清

ふんじふく花とを打るよー燈火



勾當内侍

梅はさき木乃満るはまきとさびとひて

柳はきぬは袖とちりし

後小松院御製

梅は不れわらもさるくもちりちる

こす乃満るは落月をばし今

法製

あはれさきひそひのさあはる

あはれさきひそひのさあはる

あはれ大臣實

梅のやうちは神の香をたし

あはれさきひそひのさあはる

梅 能河法師

梅は乃くはあはれはと袖うしとて

あはれさきひそひのさあはる

肖梅法師

梅は不れ満るくもさあはる

あはれさきひそひのさあはる



とく人志す

柳小は母もきこは乃のちさつ遊

少くも志はけき池乃春う勝

前大僧正の意

くしゆもきこしは春柳つ遊おらそ

とは少くもきこは乃のちさつ遊

法官の助

青柳乃能き乃のちさつ遊

とは少くもきこは乃のちさつ遊

大深金剛院入道前關天政春信

あはやまきのいしちりやをき母いそ

文明十六年二月内裏より百約乃連歌

花と春よりとくもいしちりやを

衆議基總

まはあふまきこふあふと月れ母と

まはあふまきこふあふと月れ母と

一品親王

くすむやとちさつ遊のまはれとて



おしよのよきはよき心はのち

前左大臣女女

月くはじりし山けはあけのよ

梅清少佐ひとかきしき乃袖

権大納言豊盛

凡の音もたれは月影くすけ

くはよあひきりあけしはき

権大納言定胤

春の暮れ月いりよのこる

たはのあし乃杉あし

宗初法師

夕暮れは月いりはあし

くはよあひきりあけしはき

太政大臣

子すむあはれあし乃杉あし

くはよあひきりあけしはき

権大僧都心敬

りしあし乃杉あし乃杉あし



かすみとわら<sup>た</sup>は井たの市のみち

法眼專順<sup>敬</sup>

かじふらとれたおひりすそ

くささくくさかんやせん

多くうぶ政記録

少く里と都とあまを法考うん

みぬ花も庵そそぬたのいあさうけて

源政長<sup>敬</sup>

とくあはくくさあまはくや

おのう場さきあを志津ひき

権大細之<sup>敬</sup>字録

ふに法家とあはれあうそちあや

明應二年正月廿廿日小野乃村

あせたるいけさ百約せきんに

雨もつとつとつとつとつと

由<sup>敬</sup>製

花とあま枝りあをれきんかんと

あはくそあはれはれあひひ



後花園院御製

さかへしより花舟とていづこに

由裏し七百約のまゆ

はらへしとゆへにゆへにのま

入道親王の御

はらへしとゆへにゆへにのま

みちとるまもあまのまを河

え流は親王

さかへしとちまじりしはとて

はらへしとゆへにゆへにのま

観音寺入道前大臣

うはのまもとてゆへにのま

はらへしとゆへにゆへにのま

おた大臣

花さけははひのまもとて

たはらもとゆへにゆへにのま

式部卿高親王

はらへしとゆへにゆへにのま

をいづこにゆへにゆへにのま



檀大納公実香

奥山を花小をやとく<sup>り</sup>しん

あつ穂しはのまのまのま

多く良政弘<sup>弘</sup>能

く一時まらと休なりとく

くまのまをく<sup>り</sup>ま

玄澄法師

なふとたしくく<sup>り</sup>く<sup>り</sup>を

く<sup>り</sup>みく<sup>り</sup>く<sup>り</sup>く<sup>り</sup>を

法平・行助

はく花よ木ののすみ煮りあ

か<sup>り</sup>ま<sup>り</sup>あ<sup>り</sup>あ<sup>り</sup>あ<sup>り</sup>あ<sup>り</sup>

宗初法師

まか<sup>り</sup>あ<sup>り</sup>あ<sup>り</sup>あ<sup>り</sup>あ<sup>り</sup>

ひ<sup>ら</sup>あ<sup>り</sup>あ<sup>り</sup>あ<sup>り</sup>あ<sup>り</sup>

道宣法師

花白くはれあ<sup>り</sup>あ<sup>り</sup>

す<sup>み</sup>あ<sup>り</sup>あ<sup>り</sup>あ<sup>り</sup>あ<sup>り</sup>



忠<sup>楷</sup>擔法師

しんちんもあふ乃んかともふんて

ふにぬしけは梅山りやなり

前左大臣

たつひしんかや人とおりのん

りんふのこふやまみちれす急

法眼専門

花や志るを幸も我ううふつき

日のすを部れかんのふ山く

太政大臣

山ましやまれなふりきり

満の海のみちそくは法まぬる

法製

さふしんまぬみふりひま

文明十一年二月廿九日内裏して百

約のまんのり

りましのひうらふあを終

前大納言雅親



まうとふかのことあはやくう移ん

う海さハ香アミちほふふあり

法眼書順

あうはるしとふあはまにいろ移きて

さうらめあふ山みちれす急

後三條入道前左大臣

花はらうらうらまきふさけく

じりや思ふ事乃くはるん

源尚純

まをまふかみ野れあほ

まてかふまはくふれやふあらん

権中納言之直親

心算あうほくさあア志うま

まはれりあま志ふきぬゆの

藤原政行朝臣

おまけれ花はじりぬふもな

うほいあたるあられむら

智蘆法師



みねむらさきあはれしつゝいこゝろ

こゝろはそとへはあけやうき

玉子のさき山崎の産 三品親王

よそふみしや<sup>秋</sup>とくや 花はけ

あそく<sup>秋</sup>とくやとくや

入道親王道永

ゆくはまたの浦の心はなごころ

柳とあはれ<sup>秋</sup>りわき海そと

慈照院入道贈大臣

花小枝 ころもよしのあけ

こもくわは海よのやま

宗徳法師

まのあはれはあはれ

あはれしとあはれ

持大僧都心敬

こもくわは花小枝

あはれしとあはれ

入道右大臣



七月あひあふし終りしれりて  
おのころのしほ書れやまのん

二品親王

うすこころをまじらにらりまきて  
おもひけいひある月またらうひそ  
いあしおのこすころおれとゆやま  
う勢もかきらぬあゆ柳乃りけ

後一位富子

うふも又あもむくく一花とらんそ

うすこわけはのゆは日乃りけ

法製表

ふたふんころあよむす急のりられて

天明十二年二月廿五日小野の社よ

ま<sup>り</sup>物<sup>り</sup>続<sup>け</sup>る<sup>り</sup>御<sup>ま</sup>きん<sup>り</sup>ふ

のいほやよひと日うすけりあは  
いほくは死しう後乃らうのうまそ  
おもひのあもむひそなとらあそ

前守白を塘



おらそやいあうぬすの路の山さく  
あけくくくくくくくくくくく

如法寺院前開白左大臣

あけくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくく

前右大臣

くくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくく

三品親王

神のうはれくくくくくくく  
みくくくくくくくくくくく

十編院入内右大臣

くくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくく

左邊の書為廣

花をくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくく

御製



ふふやうらひてくひすれなく  
家の百韻<sup>の</sup>連歌

梅かぬき屋のあさく珠

開白右大臣

雪れ本津くまろこまらち色  
なうしこと霧が屋つてを

宗澤信師

くひはるおみするあさけ花はたて  
けおら落なるあけあさ

お大助云雅親

鳥そなくくろく乃花一屋うん  
わう者もあはの世とこのまは

前大僧正増運

お畑そんあこなる花のまはけら  
なうこらぬ志のふり

前大僧正の意

見一友もまはけらあさけとひて  
おまぬはさくはあそ



法眼專順

夕浦くれともれまねたはるあまきそ  
くもあはれふすじく

前大納言親長

志げある野寺乃花乃しけ少敷そ  
はるあはれふすじく

松大納言至

ぬれ音と一落乃花よきそすそ  
くもあはれふすじく

從三位義敏

光少一落れあふやそそ

くもあはれふすじく

平貞宗親長

さくそとくはるあはれふすじく

いとくちをそそ月と刀とくれ

松大僧都心敬

人の海は山落志津けきとあはれふすじく

いとくちをそそ月と刀とくれ



くれぬてかづり一輪のしほふ  
うきくみせぬいさく後ありきり

玄空法師

よはのいづらと死れふ死いあへ  
くみふいふいづらよふひ

智盛法師

死とく染おりよふはくくく  
たかきくくくくくくくくく

後醍醐寺入道前圓覺大堅住

まこふみまも花ち紙阿うて  
くくくくくくくくくくく

権僧正日慈

くきあうくくくくくくく  
くくくくくくくくくくく

能阿法師

去年みしと花めくくくくく  
くくくくくくくくくくく

青柏法師



たゞて世にさうすは花やうんまじ  
うゝ力をもちよるほとの侍もらね

檀大納言実隆

聲しりやうくをふり吹かせ

人北身やじまゐりてひるうらま

宗義法師

花よりちりぬ世にたをたの樂

法くく志感のこゝろす

法指通載

おりののすゝふもまゝのをききて  
なをちるやまふまゆくゝる

源盛卿

るははらうの産れとてく

法らのまやもくまてめふす

法眼專順

くいのの霧おれ河くくちる

右三句を



新撰菟玖波集卷第二

春連歌下

あきこそよふまはらふ

冨白右大臣

あはれはるやもよせりきんよー 野川

あきこそよふまはらふ

三品親王

あはれはるやもよせりきんよー

あきこそよふまはらふ

十梅院入道兼右大臣

あはれはるやもよせりきんよー

あはれはるやもよせりきんよー

唐製

あはれはるやもよせりきんよー

あはれはるやもよせりきんよー

あはれはるやもよせりきんよー

あはれはるやもよせりきんよー

三品親王



死より其の後子と母を業此居  
じいふうらまゝとらねたはる

入道前右大臣

見や、いふあゝのふおれひ

ふりしの方姫のふとまをこ

新編法原

乞本れをあらうや海を渡り

わらあほほとをたふとまをこ

武部口久常親王

ちる花乃<sup>ち</sup>り<sup>ち</sup>り<sup>ち</sup>り<sup>ち</sup>あ志の袖も

百韻乃ひしらまらん

うゑはとふけいさしとら七

控大御云實隆

ちるあまをさるるやういふ花打しん

寛正二年四月九日百韻連歌

雨さくこすえと白くやまはる

後花園院御製

法勝をうけちほとふれしう



きいのふにあらはしむるのよきはき

藤原雅俊の片

はらへちばまはれしはくくれやそ  
まことせうくは地色の夕つ遊

権大僧都心敬

あつたのわらふの影よ花あちそ  
おこなはれしはみくられはみち

智蘊法師

地りくはらふるふれは花

おもしろははれしはくくれは

多くは政弘の片

あきははらふるはくくれは花  
なほまはれしはくくれは

前大僧正義実

あつたのわらふの影よ花あちそ  
おこなはれしはみくられはみち

権大僧都心敬

きいのふにあらはしむるのよきはき



らうあまのりよとあひまをさしき

宗長法師

ひふせいらしと花よあけくまて  
うくひすふ約束さあぬ屋くらて

檀夫僧部日与

ちよほのたまあうりひく徳のそ移ん  
へんしうきり花れあひあけよきり

従三位まを

あうらう花ふさふあらうあま

移てと移り終ぬよとれたたき

宗叔法師

あまあしよあふもくふれらあて  
ひふせいらしとあひまをさしき

宗礎法師

いふ移しよのあまあしよあて  
あひまをさしきとあひまをさしき

檀夫僧部心敬

月にちほ花いこせ世れそのあて



のまろほしめりぬまほしき

慈照院入道贈大臣大臣

花いちろを月もいほくさありゆき  
かすりこぬまやりてこたたん

道空法師

ちかたるあとしさうひてすくは文の  
よきま柳よたまらんしつて

春深重信

ちか物とくくくを風やさそくま

物うたうくんとまははは

前右大臣

うらとちかぬ花をましくのせま  
おくまよしのゆふれれを

開白右大臣

風はそま花はね乃まもひりあらん

内裏とてゆりし連歌

あつらあひをいふれり

入道親王道永



あはれも又とふくまはれりよう後、事々  
いふにひてこのちをことたん

法眼專順

とらぬをもみまはるすきし地りて  
ちまらむむなしくれらるる

宗勲法師

あはれもと人やおはれしおのちらん  
一すもれおのひふさくんか

肯柏法師

とたててとまきしことおのちらん  
とていたるよもも何もお世とて

檀大僧都心敬

とらぬちあつとらぬ後ものくらん  
物はひし柳本ゆき浦とれま

前守白全博

北のあも刀くぬ花そちるくらん  
あはれもとれらるるれと

一品親王



よしみあはれ川の傍そひてちたはるよ  
松たてあはれ乃しころころのさひて

太政大臣

雲よりたつるころあはれさきいあはれん

文政十七年九月廿九日約連親下  
りくひすのわつたはれいさいあけ部と

法製

さあはれあはれあはれさあはれやま  
わりころころあはれあはれあはれ

入道親王の御

花地りー流とろろあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

ちろあはれあはれあはれあはれあはれ

わろあはれあはれあはれあはれあはれ

法橋通載

とあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ



権大僧都心敬

花おほくはるる後一もあめとてはちかて  
あやしく世にこそとまよふる會はる人

能河法師

ふにちかふるふれあこむくはやめ  
古郷の死にこそはるるやとせむ

源泰仲経

はくくくくくくくはるるあひみち  
はくくくくくくくはるるあひみち

慈照院入道贈大臣

まふまふとてはるる花ちるる  
世にすはるるあひみち

前大僧正増運

ちあはるるあひみち  
ちあはるるあひみち

関白右大臣

ちあはるるあひみち  
思ふはるるあひみち



よるひとーらん

ゆふれぬーさくちあま

んくーをれはーことさ

前年白 文書

りー少ひりーおくれ地

永享五年四月他國小く

連歌女まき女の名姓

後稱名院入道前大臣

ちふーそあーらんー花

なみーはあはふしー

子紙法師

むよー人うせもーあ

世ーしとあひとーせ

開白右大臣

おのれーあーかた

こーゆー書とー日

法橋通載

さくーりーりき入あひ



とよきれぬにたれは月夜なるをうそ

多し良政弘智臣

あけにやうおろしきおはりやほ

やまのこころのほほほりなれ

後一位教忠

花にやのこころぬけふの移りて

たのいう世せいしやうは世

あたま大臣

ちほろあいにあぬう路乃た

延徳四年二月十九日の入は石連

歌よ世才とししとをふの奥

法製

乃とむしあやうか乃ちほろ路

見たりあまそあうかあしき

三品親王

ちほろそととれにうこあや

をくれしは突くらやうのこあふ

前大僧正道興



玉體のこころをいかにしるまきり  
こころをいかにしるまきり

檀大僧執心敬

乃乃のこころをいかにしるまきり

ゆふのこころをいかにしるまきり

花のよみのこころをいかにしるまきり

あつたきりめいこころをいかにしるまきり

あ左大臣實

こころをいかにしるまきり

世にこころをいかにしるまきり

かりぬこころをいかにしるまきり

こころをいかにしるまきり

こころをいかにしるまきり

こころをいかにしるまきり

智信法師

こころをいかにしるまきり

こころをいかにしるまきり

後如愚寺入道前開吳政大臣

古枝のこころをいかにしるまきり



まごころひすれのこころをこころ

前左大臣

都さくらやあけ葉のしほを敷きひき  
こころこころこころこころこころ

宗輔は師

さくら花はこころ世にまするつる勢  
さくらこころこころこころこころ

ちんは

さくらこころは松かきこころこころ

わがこころあはれこころは今日の日

宗輔は師

花乃こころ又わが花はまはれこころ  
こころはこころこころこころ

徳阿は師

山はこころこころあけ葉をひきこころ  
さくら花はこころこころこころ

源実澄 澄

さくら花をこころあはれこころはまはれこころ



はつやうとくはむかへるもあましくみち

式部卿高親王

よとほくくさるゝをきよくまはるゝん  
あけゆゑふらふりすむ志を

家守は原

御所のに侍るまもあやうりぬ  
やうりぬか日をまゝにふさふさ

贈後之臣教弘

うちをあらうそのはらひなきは

うらみむかしもあやめく

あ左大臣

春さめはゆきともはくしきもせく

はるやうきそらうつおのひふくれ

宗徳法師

下りえはきまふかほをほれあめ

花ちりうへ屋といふひきなをほれ

持大納言高清

あまらうぶはれあめうすむと



くみはさるるのいづくをくみはら<sup>ら</sup>ん

正根法師

ひともをときぬまよふあ乃や

まじらち志ふを教乃おもふ

ふらん

さむらちあふらに田へ水せきて

ししくまきまはしけふく魚あらん

法眼寺願

わらなれり乃くはむとれぬ

ひひくし後乃い法者あけさ

慈照院入道贈太政大臣

さくそふすみなまつむ野と又やうん

くすみアキゆるう勢北けすん

控申細玄雅康

ひはくどのかきらとあそふいとやん

長享二年卯月八日内裏へて屋く志

の名号とうくとたときて侍百韵連歌小

屋つらうははしはまふあふものを



常信法親王

草のわらふ葉よりなるくわらふ物

り葉もひけふ志ける春柳

宗長法師

はらあとも喜れあつてみすすみそ

りふふもちてあちらるるるらん

肖栢法師

うすじりう後れあつたひりる

あつらうとてやひりちたらん

源政直

よろ子ころらよとてあつたね

じまねぬとたれとてあつた

とて人志らん

まへまよりうらは葉のあつた

やまもくれうらうとてあつた

入道親王の侍

山はしら花のあつた

あつたあつたあつたあつた



法製家

を侍の本す急此より此に

あつてはくく此に

衆儀甚多

心より人を本す急乃

はぬ路をたに

武部

ははあつて井てのた

ころ乃まふるあ

後加恩寺入道

あちせううはるき

おもひけいかり

法下

あつてぬ

法眼

やまふた

いんね

宗



やまのきけりもかたむけいふきれ  
たふらうしんまうしんらの中

多々<sup>34</sup>の函<sup>34</sup>松<sup>34</sup>松<sup>34</sup>尾

おらうとひぬらう東阿まこの藤北死  
みあまのまといふて教乃日

宗伊法師

藤さうたふれい急くす急けそ  
いふしんあつ神のあつあ見

能河法師

たそくまア藤乃の流若くすけりまて  
一巻いあけぬらあまの法師を

宗紙法師

たむかすり回これ友外をいん  
たうあもあうすくれわく教

松大細云實澄

まのい満すしんらあころりえ  
うくひすはあよこ雲乃見

法橋通載



龍よりさつうの事ら此月より

くはくのおれいひよはる文由書

權申納を西世

くふくまうりたるものこらに

又もはくうりあふりともうね

権大納を教具

くわくまあはやくる魚はまはる

新撰菟玖波集巻第三

夏連歌

とそしとふらおのひとてまん

権大納を菅隆

のふしはくくろはやゆりま山さく

ゆくへ此書をこけいこりま

法製表

たは清く知乃我うきに秘みちんて

タムれいこりすじ里



一品親王

まはひひとわすおけおとまは  
たあきばあは月法じとま

太政大臣

このふれをいままこはらん郭と  
いふあやたうとゆるとまあん

前左大臣

ちげおとまます月此ゆふれ  
まの志のりんこはあやいあは

拾遺歌真宗

まらてんよ月いあまのあやとます  
わきをすむみひたはら雨のふれ

息摺法師

やまおとまはとつきてけ  
まははとれとくえんやま

拾遺歌真宗

まはひねとあせうまあは時鳥  
あきこころあはれそみえあ



左を申す公連

本に於て志のひねり<sup>+</sup>を<sup>+</sup>や<sup>+</sup>ま<sup>+</sup>き<sup>+</sup>は  
ま<sup>+</sup>を<sup>+</sup>は<sup>+</sup>ら<sup>+</sup>る<sup>+</sup>神のそ<sup>+</sup>れ<sup>+</sup>を<sup>+</sup>

檀大僧都心敬

ほ<sup>+</sup>を<sup>+</sup>ま<sup>+</sup>す<sup>+</sup>の<sup>+</sup>こ<sup>+</sup>ら<sup>+</sup>ひ<sup>+</sup>に<sup>+</sup>ま<sup>+</sup>り<sup>+</sup>て  
ま<sup>+</sup>つ<sup>+</sup>と<sup>+</sup>ち<sup>+</sup>の<sup>+</sup>ま<sup>+</sup>や<sup>+</sup>こ<sup>+</sup>ら<sup>+</sup>り  
か<sup>+</sup>ら<sup>+</sup>ま<sup>+</sup>す<sup>+</sup>け<sup>+</sup>の<sup>+</sup>ま<sup>+</sup>り<sup>+</sup>ま<sup>+</sup>り<sup>+</sup>て  
ま<sup>+</sup>い<sup>+</sup>は<sup>+</sup>ら<sup>+</sup>る<sup>+</sup>や<sup>+</sup>ち<sup>+</sup>き<sup>+</sup>り<sup>+</sup>の<sup>+</sup>ま<sup>+</sup>

急儀基録

おな<sup>+</sup>音<sup>+</sup>徳<sup>+</sup>と<sup>+</sup>ら<sup>+</sup>ぬ<sup>+</sup>勢<sup>+</sup>と<sup>+</sup>  
少<sup>+</sup>く<sup>+</sup>座<sup>+</sup>の<sup>+</sup>水<sup>+</sup>は<sup>+</sup>不<sup>+</sup>白<sup>+</sup>の<sup>+</sup>ま<sup>+</sup>り<sup>+</sup>ま<sup>+</sup>り

権中納言國

か<sup>+</sup>は<sup>+</sup>ね<sup>+</sup>を<sup>+</sup>う<sup>+</sup>ま<sup>+</sup>や<sup>+</sup>ま<sup>+</sup>の<sup>+</sup>ま<sup>+</sup>り<sup>+</sup>ま<sup>+</sup>り<sup>+</sup>  
こ<sup>+</sup>ら<sup>+</sup>り<sup>+</sup>ま<sup>+</sup>り<sup>+</sup>ま<sup>+</sup>り<sup>+</sup>ま<sup>+</sup>り<sup>+</sup>ま<sup>+</sup>り<sup>+</sup>

三品親王

あ<sup>+</sup>の<sup>+</sup>ま<sup>+</sup>り<sup>+</sup>ま<sup>+</sup>り<sup>+</sup>ま<sup>+</sup>り<sup>+</sup>ま<sup>+</sup>り<sup>+</sup>ま<sup>+</sup>り<sup>+</sup>  
月<sup>+</sup>の<sup>+</sup>ま<sup>+</sup>り<sup>+</sup>ま<sup>+</sup>り<sup>+</sup>ま<sup>+</sup>り<sup>+</sup>ま<sup>+</sup>り<sup>+</sup>ま<sup>+</sup>り<sup>+</sup>

常信法親王



ふとよきつらき乃の心くや  
きつやひつらくつらく

権大納言公藤

あつとすつらき乃山北時鳥

まらとつらき乃山北時鳥

法橋通載

月ふらふらのわらわのあつとす

川流むつひ乃さえたれの子孫

法皇幼助

あつとすつらき乃の心くや

あつとすつらき乃の心くや

拾中細云元長

あつとすつらき乃の心くや

あつとすつらき乃の心くや

玄言法師

あつとすつらき乃の心くや

あつとすつらき乃の心くや

小野國繁



ひらりひらり〜やう〜程ほ〜ます

文北書ハ〜時のまのや〜なまを

宗長法師

ちげハ〜まひ〜やまや〜ます

〜後とあ〜此<sup>紅</sup>〜に〜う〜

藤原実満

〜急〜月たつ〜山をなや〜ます

〜ま〜らあ〜のあ〜なやまは〜

智閑法師

〜〜き〜月をり〜情〜了〜急〜あて

〜ま〜ま〜き〜ま〜そ〜外〜袖の〜

肖柏法師

〜法〜も〜志〜ぬ〜山〜〜あ〜り〜

〜草〜乃〜ら〜ら〜と〜斬〜と〜外〜物〜

流三任義敏

あやあ<sup>紅</sup>〜〜り〜あ〜〜や〜〜し〜ま〜〜

法書〜〜う〜海〜ま〜向〜と〜阿〜ま〜〜志〜結〜

人北は〜り〜け<sup>紅</sup>〜ら〜中〜〜



くはまの若女はうそくをばいひて

宗徳法師

馬場の

人のかゝる馬場のひざりと記すまて  
まゝのいし神のいし

後慈寺道前僧吳堅臣

くちまふれこす急乃落とあつて

むしあうふまもなる

法製

くく秘小花たららるる法少知ひあて

むしあめの衣と花のいし郭と

前左大臣女

花くちまふりつ遊うか子屋と

きくアしむしを恋しうらな

多良政弘

たちをよふりおゆしはあしき

うさう山田れさみまき乃

宗徳法師

くちまふさひ流あさる花ちる



いふ事すししみちれ魚の住と

宗紙法師

あちちいしししし山せえあにて

ふの十四年六月内裏とて言物連物よ

す急野ふしと火いりすうちら

持大納言宮殿

交單の志げとれさゆるまらにいて

すしきしるにあらちあらん

藤原雅俊

夏うるまき河しのわり系ふつ遊刃とて

たはしなむとたらしとあるやま

道空法師

勢うはとさあしあふ九月るア

志しあああはくちあしとすししき

其河法師

水こゆる野ハさんれ乃あうりて

みまハあゆとれつ遊持すししき

よん人



さみれば山後たむすを乃は  
うてそ竹造りけりすみぬ

法眼專順

水阿をき小田北さる魚のりみち  
乃とすくも七神乃阿これ

宗初法師

うへ一田乃稻ひらりて揚る雨小  
うほとさうりりんすをちか

多良政弘<sup>34</sup>法師

か雁りたてし月のむら落し  
ふ貴けり勢乃と北涼一丸

平助良

やまのり母くいお鳴ね乃月すみ  
は津之ちうこそり魚造らひ

宗初法師

さかへりれつるのよきまの夜子  
人うをいし母さのまけ

前冨白 名書



堂やとあめぬ海をさすすらん  
く海はさうさふ虫の音とさう

法製家

ほつらたむいん縁もみゆ

屋よりりし指をあうす縁しき

式部卿邦高親王

新ちのくわさるみまをゆはあま

いりまをらおひはつと出はらん

前中納言雅康

こはらうちうちわたるうけ

ふれうすむ志うはう中を草の窟

藤原長泰

わらうてあかほりのとりいん

いしひゆら花の夕ふりうけて

多々良政弘親臣

たそくまうきいりあさうけ

きこひまゆあまおひあうや

能河法師



今倉上寺に灯

法眼考

ふもつる祀もわいしあや

一しこの祀は不意

源秘世

夏は月と志げとを流るる

夏入りし時の

け二白あけ子奴のあつ

みちのくま屋はらふ夏は日かくれて

後一位富子

まもらひつる月を片しつる秋はけ

とやあけこじにる籠るみしつる秋

開白右大臣

なるるるなりし乃月はけはらて

ほごしはつらけらるる乃名乃るを

法眼考

なる井は演は凡しつる秋は月

くもまららけはたちのり

系紙法師

夏はの月と志げとを流るる

系一を嘆る子

系紙法師

はらけつる月と志げとを流るる

正白法師

すくはつる月と志げとを流るる



すき風の故よひく袖

能河法師

ゆきふらねみこころは雲ふ月ソれて  
涼きく路を空うりてゆく

藤原之親

ゆきたらしふもよそめくはうみの松  
みちくは志やそとあはくち

慈照院入道贈太政大臣

うきくもらゆやうらおえり風おちそ

いそがかりてうひくを

三品親王

おきもあゆやうんゆすみ  
ねゆはあを人の志あや

御製

中けやすみうてふらひちあ

天明十七年三月廿七日は門裏より  
大神宮へをたてひける白菊連歌よ  
とひくほる板ちりきり



深草右大臣

夕露のひらも露一草乃り

ゆふくしとちきりちうはれ

宗初法師

あいらち法師一人すむまののけ

こすきしとちきりちうはれ

多良法師

あきとけふすそ乃夕す一見

あきとけふすそ乃夕す一見

よ見人

むあけやならのひさされ夕すみ

とちきりちうはれ

宗伊法師

あきとけふすそ乃ちうはれ

とちきりちうはれ

宗伊法師

夏了後七日を願うにこれとあて

おろしとあまをささるるこふ



系也法師

みお月北見くく川小川かたり

すてわさふひ北みつ徳法公一さ

法橋通載

かく一海北あまきとやぬんそき川

すはさやん北身とありあらん

系砌法師

せきみきいひさ北なるあくみそきこうは

新撰菟玖波集巻第四

板連歌

萩少くう勢志うら持くく一急

前中納言雅康

梅きぬとたひひうしるもや海あらん

雨く化そき日くく一北そく急

肖栢法師

伊約や海くもあくくせうあきく平らそ

くく海そく急とくくくくくくく



法橋通載

夕つ遊れあさき見やこにあきたらそ  
いまこひちたはゆふれそりし

法眼為順

まろ人のぬゆきとに秋ふらそ  
つりりさひあはれあはれ

宗祇法師

柳ち敷佐保れ河勢けさふきそ  
けりし身をそ座はらふまにわらひ

能阿法師

ぢろのあきこりれろ風れそ急  
おろし城しとあまこふとま

権大僧都心敬

解とあしとまきのうかきしと  
風ふもまこりまふに枯らあそ

弘政朝臣

おきほを名満りすまこ日月  
あそんかあうぢろろろろ



お大傍正道興

くけりすきこころは月のまろ枯ふ

あさるこころよきれすこころ

よこ人志す

梅は勢夕乃月ふ子きりあて

以流ふきこころはほこころうは

宗礎法師

ゆふみえぬ枯をたならぬみきり松

こころう遊志らこころはけきよかき

二品親王

日くくくくくくくくくくく

又神ぬくくあきこれさうく勢

御製

七夕のほと紙のうくくくく

長享二年八月廿二日内裏くく百約の

き給ふこころはねこころ風や川らん

権大納言実隆

あさるこころみきりすこころはこころ



うきいちくちんそくそあけぢ

前左大臣実

玉うききさつこのけしれわきき落丹  
ふいしくひあひもすらん

源友興

あま此河あをせかりぬ枯のそよ  
いのちあやのちあひあらん

法眼香順

七夕乃あをねいまれまたえもせく

しんをよのむたひれたまきくふ

法平行助

のいほあひさやるをまらん  
山あひさちあひこのもぬ枯いさく

源秀備

萩うき勢いひくくのそよ  
さあ終くしやあはしの梅

源宣流

萩うき風うきまらやとらあつらん



法くくくく身とくは老の梅さけく

宗勳法師

福さめハ萩れかきとくくく

梅といハあつれと梅と思ふ梅よ

権大細玄豊色

月と梅との山は乃ときりく

文明十四年二月わくんきんくの中よ

志くれするやとほ梅さけく梅さけく

りわくよ 慈照院入道贈太政大臣

下葉の梅はく山はれむくく

つ梅とまくくひぬ梅くのりく

宗順法師

たう梅とまらてく白ふ梅く花

ちきくぬそのを名とくたちぬ

法橋苗哉

さをくくのはまとく梅さけく乃梅花

山アヤく梅さけくく梅

前左大臣女



露は甘き花に花あき散ちりて  
ぬきこるやこいんをよとほま

権大納言高清

うちをぬくよまきよつ遊をまそ  
りみち葉みてる雨のあさる後

宗劬法師

いふこと志のふれ物乃あもくし  
すみぬは月ハ朝をにけふけて

三品親王

志の方ばゆりては梅の勢  
きらきやのこはくき松のけ

すうりて和長朝臣

花をよびて遊のひらり乃は花あき  
馬茶子<sup>棘</sup>はや<sup>さ</sup>あくらん

法下宗範

ひらぬりてはすれを乃露をけて  
月ハるをなふいさくらん

後二位明茂



あつたにやと矢田乃く河さちつ遊子うと  
ちりよあしぬ身もくくゆあれ中

法眼寺願

世に葉此わさる花のしこ交梅うけて  
りくこのあそ各所とそをんる

肖栢法師

とまふ一たる祿一のに志をあらん  
月やとれつ遊も大世乃言つら

後如慧寺入道前僧白大政大臣

以強乃ちくさくアをそらうらふ  
甘う入ハ月小をそまきり

宗厚法師

夕つ遊小をあけくあれと何はて  
むしをかくいれうく備

宗生法師

解はくさく人志ゆあへん  
ははれくさくあまのあし  
ははれくさくあまのあし  
ははれくさくあまのあし

檀大僧部心敬

唐ちる事記の月れあまのあし



この事柄の中へ

つねに夕のたすなうこ

前大納言惟康

たましおの思ふあはら母を

たのむを著し

権大納言宣隆

前大納言親長

おのふと母し乃ちく

よきこころに風乃ちこつ

御製

日くはまはいあか

天明十二年八月廿五日  
内裏より西約  
乃ち

やとらるる月ハ夕ア

参議基徳

の音みくき

志くれれあはら

権大僧都心敬

むしれたすく

つねに



能阿法師

すむのなまこころをなほおろふ

わひはみまに月をさやけき

宮乃親度

まじつ徳つおほく母こころに忠たえん

まじに梅うかれのこころはうけ

太政大臣

このころにわらわのこころをまじりて

くさ乃満くまこそつおほく梅こころ

御製

あましくす月ほこころを福とらて

梅れこそころ乃やとねおほく

二品親王

まろ甘く乃おろそおのろ月けり

す後小月れけりさいひき

慈照院入道贈太政大臣

むらみ萩の系をまじゆはわ小

梅もあころ乃ゆめこのころ



太政大臣

志うもあにむしもうしむさけに  
松小は風乃る急うしうは

宗御法師

山ゆしれおとゆふれおとあきこ  
畏のうら田ハむもけきす

能阿法師

や浦しきる月廿麻ちくおけそ  
本す急乃つ遊うわは枯る勢

道盛法師

ゆつつきに麻妙くともまおきこ  
ころも又月ハあうあけ乃る後

權中納言經卿

と新くまきく志うた急お目ハあて  
ちきらうと梅をかよひたえぬ

宗平法師

あをせはる愛種れをう音小あて  
つ遊のう野ハはくははる



延照院入道贈太政大臣

お徳を志うあつこくお徳乃書こひ小

文明十七年九月十二日不内裏より

のへさ侍のまじり

あひうねやとなく志こころん

式部卿高親王

かうきこもるもふて志う此書恋ア

とにまのよりいぬも志う徳に

はまこくお侍麻はわまの丸程とあはて

入道親王及家

こす勢とらぬあき此中とら

衆議重治

く侍からのおすア世とハやま力んて

山乃はア杖杖たひ徳以流うひて

多々らに政弘松臣

夕此書アアうま此一侍

我こ流うまふこころん梅乃う

権大僧都心敬

秋アゆふかきおまにうらぬ



むらさめよ 疾をみよ 風みえ

宗般法師

すきくみひくさるるまのく  
や治れわらぬの心乃るまの目

法眼也 癩

何うはまのうきくさるるまのく  
くわくもむすくゆき山く

智恵法師

らまのくさるるまのく

梅やうきくさるるまのく

権大細玄宣 漱

物さくさくさるるまのく  
人さくさくさるるまのく

前大僧正 義実

うられは思ふさるるまのく  
あさるる梅さるるまのく

宗長法師

ふらさるるまのく



くまのそ白く舞のうんくし舞

日景法師

夕暮やうらのたなこしと志くほらん  
ましとちまこしとたなこしとほらん

宗益法師

夕つ舞此のうらこしと舞をうらまはれ  
まは乃る舞とくしと舞の舞

法師の助

月夜舞のうらこしと舞をうらまはれ

くまのそ白く舞のうんくし舞

岡白左大臣

月まらうらこしと舞をうらまはれ  
まらうらこしと舞をうらまはれ

式部卿高親

たう舞とみきハ月をいさようよ

ゆふの流風うらましくそちの舞く

権大僧部日与

と舞の野此草のす急舞う月出く



むらやんくふひかゝるんや

法眼書頌

は急母らり月さし流る水にれて  
夕くは柳しげをすしき

丹治氏恭

みゆいせの月乃ぬをこれにハられて  
をのつらち流すいりるをんをい  
向舟人こあまは法眼流るし時

宗義法師

やとすししころいおもりぬ月すみて

文明十四年三月お大傍正道興法也谷乃  
坊とく慈照院入道勝太政大臣百韻乃法也  
くははまやく水飛くれり

前中納言雅康

もことらのゆきは月乃ち紙すみて

刀倉中納言くはむらきこるうときく物と

早忠祝

あこやれ松アアさし流る月くけ



わらふとちうり麻とすしりりめ

權津所激隆

くすの野や月の心もさやうりて

文明十三年二月百約乃き欽小

さひく見心はやうりち

慈照院入道贈大政大臣

すみの心は夕乃月乃たる海山

わらふとちうり麻とすしりりめ

深草右大臣

志の心は夕乃月乃たる海山

明應元年九月十二日百約乃き欽小

一巻おもあふけははとらき終まり

御製

あゝとさきはく月とらるるも

いづくも心は夕乃月乃たる海山

大新の鐘聲

月みまはくうらなかくともち

くさくさと終つ終志のまは



能河法師

夕月夜やまのくちなすのちりねをえん  
振れりなれをくちなすのちりね

多良侍世船居

くれもみまわりの月とびらりんそ  
たしは舟もたりしもあるきまゝ

清超法師

ひら月なる梅の勢これら  
あはれくちまらいかくやん

市大納言親長

九重アアおぼの梅乃月とみく  
くさくさおふくおもん

恩 忍擔法師

みまのくちなすをわたる梅は月  
あれさるかに枯れそら

權大僧都心寂

月とくちなすのあふくれあふく  
ねさあれのちもあふくちりけき



よき人共す

物事此よりおぼやそと乃月とて

城一ふしてとむつとて夕暮

法橋通哉

むらさめかたはこれとの月

中一をうへつてはひぬとまゝとて

宗恩法橋

月事り雨れ小軒ぬくはた

一と小のえうけふはを被と

小野國繁

かてとてう月ともみ乃秋意そ

志事とてふあきこれつて

贈後三位教弘

むらさめふくくひ月れ出ぬ

あけとてちつとらそあきと

三品親王

ふけとてあき月乃秋意そ

ふきとてあき月乃秋意そ







玄清法師

あはれなる御心なほまはらまはれり  
いかにあけそめいかにあけそめ

玄徳法師

むすし野ふあまのつらな月あけて  
ゆきもきぬつ越北極を

友原光傳

世を乃月あはれそふけきみえて  
つら移よおろふまはきり

源尚純

山ふふ出しそめ月あけて  
まはれおほきりなりそめ

権中納言言國

極乃田れあのみ月しつらゆひそ  
あはれあけそめ雨もすきけり

法眼紹永

つらふまはれ月かくはらん  
あはれあけそめあそあそ



前大納言公夏

月ハあはれと云ふらん  
あはれと云ふらん

権中納言宣親

月ハあはれと云ふらん  
内裏ニて百約乃連歌侍  
たさする好と云ふらん

前大納言

月ハあはれと云ふらん

本代とす  
み子のまの風

肖柏は原

月ハあはれと云ふらん  
あはれと云ふらん

権大納言心敬

月ハあはれと云ふらん  
あはれと云ふらん

は服当順

月ハあはれと云ふらん



はたしむるはむそくすうあつて

多うらむ政記<sup>弘</sup>館長

月みまはらぬしすむすやまわらん  
わらわくほむ<sup>な</sup>はむむむむらん

前友大臣

みまはらぬしすむすやまわらん  
わらわくほむ<sup>な</sup>はむむむむらん

松平納言宗總

月みまはらぬしすむすやまわらん

はたしむるはむそくすうあつて

常伝法親王

すみまはらぬしすむすやまわらん  
わらわくほむ<sup>な</sup>はむむむむらん

從二位義敏

はたしむるはむそくすうあつて  
わらわくほむ<sup>な</sup>はむむむむらん

<sup>赤</sup>松平經縁亮

松平經縁亮



かきまゝにふく里の母を頼む

友原正盛

神といひあす板乃よの月

ちくちくやかゝる時とわらわら

宗願法師

いつとあつとも秋を秋の月

願はれども以てあまも落れし

十編院入道宗内大臣

さやけき月をちかふたそ

まのあけてちかふとをかほすはれ

御製

板乃あつとも此月あつとも





了... 公... 人... 光...

本尔玉堂

神... 心... 乃... 乃... 乃...

女... 乃... 乃... 乃... 乃...

本尔玉堂

神... 心... 乃... 乃... 乃...

女... 乃... 乃... 乃... 乃...

本尔玉堂

神... 心... 乃... 乃... 乃...





